愛媛県歴史文化博物館

No.41

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture's News

平成17年度テーマ展

四国遍路　歩いた・描いた・記録した

絵図や案内書、遍路の必需品である納経帳や納め札。お土産として持ち帰られた絵図や刷り物など四国遍路の記録資料を取り上げ、長い道中でのお遍路さんの姿を紹介します。

四国遍路道中図／昭和11～13（1936～38）年頃／当館蔵

学芸員調査ノート

宇都宮貞泰（蓮智）寄進状／四国寺社名勝八十八番／高床倉庫の扉板／伊藤博文ゆかりの袱紗

Topic 幻の「清良記」写本に出会う

テーマ展

四国遍路　歩いた・描いた・記録した

会期：平成17年4月23日[土]～6月6日[月]
会場：企画展示室
観覧料：常設展示観覧料が必要です
＊65歳以上、小中学生などは無料

象頭山参詣道紀州加田ヨリ讃岐廻并播磨名勝附／当館蔵
四国遍路の絵図の一つ、「四国寺社名勝八十八番」と背景の一部がよく似ています。
詳しくは、５ページの学芸員調査ノートをご覧下さい。

当館では、四国遍路をテーマとした常設展示室を設け、平成六年の開館以来四国遍路関係資料の収集を進めてきました。これまでにも常設展示やテーマ展でその一部をご紹介してきましたが、今回は四国遍路を「歩いた」「描いた」「記録した」という視点から捉えた展示を開催します。

お遍路さんが携えて、共に四国を廻った品々でもある絵図や案内書。遍路の必需品、納経帳や納め札も、四国遍路の記録資料といえるでしょう。お土産として持ち帰られた絵図や刷り物もあったのではないでしょうか。これらの資料からは、現在ではあまり知られていない道を通ったり、道中での様々な出来事に遭遇するお遍路さんの生き生きとした姿が伝わってきます。

このように、四国遍路を「描いたもの」「記録したもの」は、実に様々な種類があり、その多くが、長い道のりを歩んだお遍路さんにとても身近な存在でもありました。今回の展示をご覧いただく皆様にも、その多様さや存在感をより深く感じていただければ幸いです。

明治末期～大正初期の遍路の所持品
当館蔵
納経帳や札挟みに混じって、絵図や霊験記なども残されています。

四国西国順拝記／文化６（1809）年
当館蔵
宿の食事や風呂の感想なども記されています。

四国徧礼絵図／宝暦13（1763）年
当館蔵
刊行年が記された最古の四国遍路の絵図。

象頭山参詣道四国寺社名勝八十八番／江戸時代後期
当館蔵
金毘羅の門前町で発行された美しい彩色の絵図。お土産用でしょうか？

関連講座のお知らせ

５月15日［日］13:30～15:30
四国遍路展のみどころ　講師：宮瀬温子（当館主任学芸員）
※お申し込み方法：当館総合案内にて直接お申し込みいただくか、葉書・FAXにて受け付けます。「四国遍路展のみどころ」受講希望と明記し、住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、お申し込みください。
お問い合わせ：愛媛県歴史文化博物館 振興課　企画普及係
TEL (0894) 62-6222　FAX (0894) 62-6161

ロビー展

昭和の松山を歩く

期間　4月16日［土］→6月6日［月］
会場　エントランスホール

昭和初期の大街道（灘口コレクション）

昭和28年の大街道（山内一郎氏撮影）

博物館ではこれまでに、懐かしい愛媛の風景や町並みが写った絵葉書・写真などを収集してきました。このロビー展ではその膨大な画像資料の中から、昭和初期から四〇年代にかけての松山の移り変わりを紹介します。

松山は昭和二〇年（一九四五）年の米軍の空襲により中心街を焼失、さらに戦後復興・高度経済成長を経て、その姿を大きく変化させてきました。あまりに変化が速いため、かつての風景や町並みの姿は徐々に忘れられつつあります。

ここに大街道が写った二枚の画像を掲げました。昭和初期の絵葉書には左手に「ラヂウム温泉」の看板が見えます。戦前の大街道二丁目には煙突が付いた三階建てのラジウム温泉があり、多くの市民に親しまれました。しかし、今となってはそのことを知る人も少なくなりました。もう一枚の昭和二八年（一九五三）の写真では、大街道をボンネットバスが走っていますが、この約五〇年前の画像でも、現在の歩行者天国の大街道を見慣れている世代にとっては新鮮に見えることでしょう。

ロビー展では、松山のおなじみの場所について、できるだけ年代が異なる画像を展示します。見慣れた場所でも、時間をさかのぼることで思わぬ発見もあるかもしれません。昭和の松山を歩く時間の旅をどうぞお楽しみください。

季節モノ図鑑 ④

幟飾り（のぼりかざり）

～百三十六年前の五月飾り～

五月五日、端午（たんご）の節句といえば大空に気持ちよさそうに泳ぐ鯉のぼりや武者人形を連想しますが、このような幟飾りは、武家の外飾りをまねて、江戸時代後期ごろから庶民の室内飾りとして流行しました。この幟飾りは、明治二年に生まれた男の子のために作られたもので、木枠の両端には家紋を押した幟、中には十文字槍・馬印・毛槍を立てた五本立て、高さは二一四cmもあります。幟の裾の端に付けられる風押さえの錘（おもり）は、一般的に括り猿（くくりざる）と呼ばれる紅布製の錘をつけますが、この幟の錘には愛らしい毛植えの猿が付けられ、私たちの目を楽しませてくれます。

＊この幟飾りは４月12日から民俗展示室２にて展示されます。

ちえのわ教室

からくりおもちゃ
まんげきょう（万華鏡）をつくろう！！

３月～６月のちえのわ教室では、紙筒とビーズやセロファンなどを使って作ります。小さくあけた穴からのぞくと、色とりどりのきれいな模様が見えてきます。どんな模様が見えるかな？

日時：毎週土・日曜日　13:00－16:00
（受付は15:00まで）
場所：体験学習室
参加費：150円（材料費）
お問い合わせ：振興課企画普及係
0894-62-6222

資料名
宇都宮貞泰（蓮智）寄進状
（愛媛県指定文化財）

年代
観応三（一三五二）年

サイズ
縦三〇、七cm／横四七、二cm

所蔵
西禅寺蔵／当館保管

大洲市手成の古刹である西禅寺には、南北朝期から戦国期にかけての古文書十七通が伝えられています。そのうち最古の古文書がこの寄進状で、喜多郡の武士宇都宮貞泰（出家して蓮智と名乗る）が、西禅寺に対し、重臣の行胤の忠功に報いるため、毎年三十三貫六百文（現在の貨幣価値で約三四〇万円程度）を寄付することを記しています。

宇都宮氏は、下野国（栃木県）を本貫とする武士団で、鎌倉時代後期に伊予国守護の地位を幕府から与えられ、伊予国に勢力を伸ばしました。この寄進状を記した宇都宮貞泰は、鎌倉時代末期には喜多郡地頭職を得ており、幕府方として倒幕勢力と戦い、その後は足利尊氏に従って、室町幕府成立後は引付衆という役職に任ぜられました。

この寄進状をはじめとする西禅寺文書は、西禅寺の消長はもとより、同寺の活動を支えた宇都宮氏や津々木谷氏らの活動をもととする中世伊予の情勢がうかがえる史料として大変貴重です。

歴史・文書　民俗　考古

資料名
四国寺社名勝八十八番

年代
江戸時代後期

サイズ
縦三六、〇cm／横六七、五cm

所蔵
当館蔵

四国遍路の絵図です。一見、四国が描かれているとは思えませんが、それは本州の中国地方から四国を見た構図となっているためです。中央部には金毘羅権現が大きく描かれ、札所の他、各藩や港の名などが記されています。

本州部分では、宮島（現広島県）と錦帯橋（現山口県）が描かれています。しかし実際の地形とは大きく異なり、宮島は吉田や八幡浜と、錦帯橋は第四〇番札所の観自在寺と、海を挟んで対置されています。

これは、金毘羅の絵図の一つ「象頭山参詣道紀州加田ヨリ讃岐廻并播磨名勝附」の宮島や錦帯橋の構図とよく似ています。また、この金毘羅の絵図の構図は、実際の地形とほぼ合致しているため、「四国寺社名勝八十八番」は、この絵図から本州部分の描写の一部を写したのではないかと考えられます。この四国遍路の絵図は、金毘羅周辺で作成・販売されたのかもしれません。

＊宇都宮貞泰（蓮智）寄進状は３月中旬より歴史展示室２に展示します。
＊四国寺社名勝八十八番はテーマ展「四国遍路　歩いた・描いた・記録した」に展示します。

▲取っ手部分拡大

資料名
高床倉庫の扉板
（今治市中寺州尾遺跡出土）

年代
古墳時代後期（六世紀）

サイズ
長さ一六三、四cm
幅五一、二cm／厚さ六、二cm

所蔵
愛媛県教育委員会蔵
（平成一五年度に当館にて保存処理を実施。）

今治市中寺州尾遺跡は、国道一九六号線のバイパス工事に伴い発掘が行われ、弥生時代前期から古墳時代後期にわたる溝や沼の跡などが見つかっています。発掘の時にも近くの川から湧き水が流れ込んでおり、約一五〇〇年前の溝や沼の跡からは、近くから流れ込んだと思われる木製の道具が多く見つかりました。

この扉板もその一つで、二枚で一対となる高床倉庫の扉板の右側です。マツ科のモミという木材を加工して作られています。中央の取っ手は削り出して加工され、その真中には四角い形の穴が開けられています。観察すると当時の技術の高さに感心させられます。この遺跡では倉庫の跡は見つかっていません。多分、周辺にあった高床倉庫が使われなくなった後に沼に捨てられ、流れ込んだものと考えられます。

このような扉板は全国で約十例が確認されているだけで、貴重な資料の一つです。さて、この扉板の奥には一体何が収められていたのでしょうか？

歴史・文書　民俗　考古

資料名
伊藤博文ゆかりの袱紗
（一九〇九）年

年代
明治四二

サイズ
縦五二cm／横五二cm

所蔵
当館蔵

これは、明治四二年に伊藤博文が松山を訪れた際、礼として渡した袱紗です。箱書きには、次のように記されています。

三月二六日、郡中町（現伊予市）で、伊藤を歓迎する夜宴が行われました。三月下旬のことで、まだ寒さが残っていました。そこで、井上要（前衆議院議員）は、娘の節子に汽車の中で暖をとらせ、伊藤にお茶を進めました。伊藤は大いに喜び、松山に戻ってから、節子にこの袱紗を与えたのです。

そもそも、この袱紗は、伊藤が韓国皇太后から下賜されたものでした。袱紗の表裏は、紫と赤で、竹や梅の模様が施されています。韓国皇太后からの賜品らしく、気品と高貴さを漂わせています。当時、伊藤は、初代韓国統監を勤めていました。したがって、何らかの経緯で下賜されたのでしょう。

伊藤は、この半年後、ハルビンで暗殺されました。この袱紗は、松山を訪れた晩年の伊藤を物語る貴重な資料と言えるでしょう。

＊高床倉庫の扉板は考古展示室に展示しています。
＊伊藤博文ゆかりの袱紗は歴史展示室４に展示しています。

高串本「清良記」／宇都宮由美子氏蔵・当館保管

Topic

幻の「清良記」写本に出会う

学芸課長　石野　弥栄

「清良記」という戦国時代の軍記物語があります。これは、三間郷（現三間町）の大森城主で、天正七年（一五七九）に大森城近くの岡本城をめぐる合戦で土佐国の長宗我部氏の軍勢を破る戦功をたてた土居清良という武将の一代の事績を記したものです。「清良記」が全国的に名を知られたのは、巻七の農書によってです。農書の部分は、清良の家臣松浦宗案が、永禄七年（一五六四）に農事に関する意見を清良に上申したものですが、現在では、日本最古の農書ではなく、後世の仮託にすぎないという見解が有力になっています。

「清良記」の成立年次については、いろいろな説があって長い間定説はなかったのですが、最近、宇和島藩の記録の中からその成立年次を明記した史料を見つけ、歴史講座で発表しました。宮ノ下村（現三間町）の土居水也（三島神社の神主。土居氏一門真吉氏。）とその弟甚右衛門（高串村庄屋。現宇和島市。）らの土居清良の子孫が寄り集まって、慶安三年（一六五〇）から作り始めて四年目の承応二年（一六五三）に完成させました。水也は業病を得て三島神社の奥の谷に庵を結んで隠棲し、病で曲がらなくなった指に筆を結び付けて「清良記」を書いたという逸話が伝えられています。水也は、「清良記」を完成させた翌年、燃え尽きるように生涯を終えています。

土居水也らが作った「清良記」の原型の本は失われ、残存する写本はすべて流布本で数も少ないのです。その中でも年号の記されているものは、七本にすぎません。その最古のものが、高串村庄屋を代々務めた土居家に伝えられた本（高串本）で、同家の末孫菅男（第十一代当主。明治四年生。）の頃に公開されて以降半世紀以上も非公開とされ、最近の研究者は誰も実物を見ていません。ところが、最近この幻の写本が姿を現したのです。

宇都宮由美子氏（西予市）から寄託された資料（由美子氏の父覚重郎氏収集資料）の中に、この高串本「清良記」を見つけたときは驚きました。それは、箱に収納されていて、蓋裏に「土居清澄」と墨書されています。『高串土居家譜』（昭和十五年編）を編纂した土居菅男は、清純とも名乗っていますから、彼が「清澄」とも記したのかもしれません。箱の表に「清良記　三十三冊」と記された貼り紙がありますが、中味は総目録を含めて三十一冊です。各冊に所蔵者とみられる人物の木型の花押（花押印）が据えられています。今後、同本の一般公開によって、「清良記」の研究がさらに進むことになれば、幸いです。

友の会NEWS

新年度会員の募集と更新手続きについて

友の会では、ただいま新年度の会員を募集しています。会費、入会方法は次のようになっていますので、ぜひこの機会にご入会ください。

なお、現在会員の方は、新年度も友の会活動にご協力いただきますようお願いいたします。

◇会費

区分	会費
個人会員（中学生以下）	2，000円
個人会員（高校生以上）	3，000円
家族会員	4，000円
賛助会員	10，000円

◇入会方法

①会費をご持参の上、歴史文化博物館に直接お申し込みください。

②郵便振替払込取扱票に、名前・住所・郵便番号・会員の種類を記入の上、郵便局で会費をお振り込みください。

◇口座番号

01610-0-45873

愛媛県歴史文化博物館友の会

（ご入金をご確認後、会員証をお送りします）

◇友の会特典

①常設展示の無料観覧

②『友の会会報』『歴博だより』等刊行物の送付

③友の会刊行物の割引販売

④現地学習会など友の会主催行事への参加

⑤博物館行事のお知らせ

定期休館日が変更になります。

これまで、歴史文化博物館の定期休館日は月曜日（祝日の場合はその翌日）となっておりましたが、平成17年４月～９月までの半年間、毎月第１月曜日は開館し、その翌日火曜日を休館日にいたします。

これは、利用者からの月曜日開館の要望にお応えしたものです。

今後、期間中の皆様方のご意見や利用状況を踏まえて、平成17年10月以降も継続するかどうか検討したいと考えております。

月曜休館に馴染んだお客様には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

■４月～９月の定期休館日

４月	５日[火]	11日[月]	18日[月]	25日[月]	
５月	６日[金]	９日[月]	16日[月]	23日[月]	30日[月]
６月	７日[火]	13日[月]	20日[月]	27日[月]	
	※６月21[火]・22日[水]はくん蒸のため臨時休館。				
７月	５日[火]	11日[月]	19日[火]	25日[月]	
８月	２日[火]	８日[月]	22日[月]	29日[月]	
	※８月15日[月]は臨時開館予定。				
９月	６日[火]	12日[月]	20日[火]	26日[月]	

テーマ度

おひなさま展

平成17年２月22日［火］→４月10日［日］

西条藩松平家の雛飾りをはじめ、江戸時代から昭和にかけてのお雛さまを展示します。なかでも明治天皇と昭憲皇后の変わり雛は珍しいお雛さまです。

展示スケジュール2005.4～12

	常設展示		企画展示
4	歴史展示	民俗展示	テーマ展 四国遍路 歩いた・描いた・記録した ４月23日[土]～６月６日[月] 様々な四国遍路の姿を記録資料や絵図などで紹介。
5			
6			
7			企画展 上黒岩岩陰遺跡とその時代（仮） ７月16日[土]～９月５日[月] 上黒岩岩陰遺跡関連資料により縄文時代黎明期の生活を紹介。
8			
9			
10			巡回展 いま・むかし・おもちゃ大博覧会（仮） 10月４日[火]～11月27日[日] 入江コレクションにより日本の子ども文化を紹介。
11			
12			

今季の表紙

四国遍路道中図

昭和11～13(1936～38) 年頃　　当館蔵

徳島県撫養（むや）港の江口商店から刊行されています。撫養は、本州からの遍路が四国に上陸する港の一つです。これから遍路を始める人々に販売されたのでしょう。両面印刷で、裏面には、故郷との安否確認や遍路費用の受取等のために郵便局の利用が勧められています。

愛媛県歴史文化博物館
歴博だより No.41
Museum of EHIME History and Culture's News

発行日　平成17年3月20日
編集/発行　愛媛県歴史文化博物館
〒797-8511
西予市宇和町卯之町四丁目11番地２
TEL (0894) 62-6222　FAX (0894) 62-6161
http://joho.ehime-iinet.or.jp/rekihaku
印刷　岡田印刷株式会社